



営農NEWS



ハウレンソウ栽培における主な病害虫防除

ハウレンソウ栽培では、べと病やアブラムシ類、ハウレンソウケナガコナダニなどの茎葉病害虫や、土壌病害の萎凋病、立枯病、株腐病などが多発生して、商品価値の低下や大きな減収を招くことがあります。

ハウレンソウべと病には抵抗性品種が導入されていますが、新レースが出現すると発病することから、発病に適した比較的低温で多湿な条件が続く時には、薬剤防除も組み入れる必要があります。

土壌病害の萎凋病、立枯病、株腐病（リゾクトニア菌による苗立枯病）は、比較的高温または高温期に多発生する傾向がみられます。このため、発病歴のある圃場では、播種前に土壌消毒または播種後の薬剤灌注を行う必要があります。

アブラムシ類は、春季や秋季が比較的温暖に経過した場合に、侵入や寄生が多くなります。新芽や芯葉に寄生すると、展開葉の奇形や萎縮をおこし、また、吸汁被害部にすす病が発生して葉が黒く汚れるなど、商品価値を低下させます。さらに、アブラムシ類は、モザイク病のウイルスを媒介しますので、発生には十分注意が必要です。

アザミウマ類が芯葉に寄生すると、新芽が萎縮して奇形となります。また、ハウレンソウケナガコナダニなどコナダニ類が芯葉に寄生すると、加害部に小さな穴があき、生育とともに展開葉がコブ状の小突起を生じて萎縮や奇形となり、商品価値を低下させます。ハスモンヨトウなどチョウ目害虫も食害で、著しい被害となる場合があります。

このため、これら病害虫の発生には常に十分注意し、早期発見と予防や早期の薬剤防除に心がけてください。

【防除のポイント】

- べと病は、比較的低温で多湿な条件が続くと発生しやすくなるため、このような天候の時には予防散布を心がけてください。なお、厚播きや軟弱徒長、排水不良の圃場は、発生を助長しますので、特に注意が必要です。
- アブラムシ類は、施設やトンネルの開口部を防虫ネットで被覆すると有効です。また、黄色粘着シートを設置して誘殺し、薬剤による適期防除の参考にします。さらに、圃場内や周辺の雑草は、アブラムシ類の飛来源、ウイルスの保毒源となる可能性があるため適切に除草し、常に圃場衛生に努めます。
- コナダニ類は、前作の被害残渣や施用した未分解有機物などが発生源となるため、これらの処理を適切に行うことが重要です。なお、本葉2~4葉期頃の加害により奇形を生じますので、発生を認めたら早めに防除を行います。
- 薬剤防除は下記を参考に、耐性菌や抵抗性害虫の出現を回避するため、ローテーション防除に努めましょう。

表1 ハウレンソウ 主要病害の主な防除薬剤

(令和2年9月3日現在)

薬剤名	立枯病	リゾクトニア菌による苗立枯病	べと病	希釈倍率または施用量	使用時期/使用回数	分類
タチガレン液剤	○			500~1,000倍液を3ℓ/㎡土壌灌注※	播種時/1回	32
バシタック水和剤75		○		750~1,500倍液を3ℓ/㎡土壌灌注	播種時~子葉展開時/1回	7
リゾレックス水和剤		○		500倍液を3ℓ/㎡土壌灌注	播種時/1回	14
ピシロックフロアブル			○	1,000倍	収穫前日まで/2回以内	U17
アリエッティ水和剤			○	1,500倍	収穫前日まで/2回以内	P7
ランマンフロアブル			○	2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	21
レーバスフロアブル			○	2,000倍	収穫3日前まで/2回以内	40

表2 ハウレンソウ 主要害虫の主な防除薬剤

(令和2年9月3日現在)

薬剤名	アブラムシ類	アザミウマ類	ハウレンソウケナガコナダニ	ハスモンヨトウ	希釈倍率または施用量	使用時期/使用回数	分類
スタークル粒剤	○				6kg/10a 播溝土壌混和	播種時/1回	4A
フォース粒剤			○		9kg/10a 全面土壌混和	播種前/1回	3A
アドマイヤーフロアブル	○	○			4,000倍	収穫前日まで/2回以内	4A
スミチオン乳剤	○		○		1,000~2,000倍	収穫21日前まで/2回以内	1B
ファインセーブフロアブル		○			2,000倍	収穫14日前まで/2回以内	—
スピノエース顆粒水和剤		○			5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
パダンSG水溶剤		○ミナミ			1,500倍	収穫7日前まで/2回以内	14
アフーム乳剤			○	○	2,000倍	収穫3日前まで/2回以内	6
カスケード乳剤			○	○	4,000倍	収穫3日前まで/3回以内	15
ディアナSC				○	2,500~5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
プレバソンフロアブル5				○	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	28

注1) 表1の※印、タチガレン液剤の処理には、他の方法もあります。 2) 表2の対象害虫○ミナミは、ミナミキイロアザミウマでの農業登録です。

3) 表1の分類欄にはFRACコード、表2にはIRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040